

自然周期で行った卵胞チェックの結果、十分に女性ホルモンが上がっていなかった場合、「排卵しているけれど、妊娠しやすい排卵ではない」といえます。こういった方には、妊娠しやすい排卵で、少しでも早く妊娠するために、「**排卵誘発剤**」をお勧めします。

また、自然周期でタイミング治療を行ったが、妊娠しない、という方も、妊娠率を改善するために、次の周期からは誘発剤をお勧めしております。人工受精の方は排卵誘発を行わないと、ほとんど妊娠しない事がデータから分かっておりますので、最初から誘発をお勧めします。

排卵誘発剤は大きく分けて、**①内服薬**と**②注射**があります。内服薬は体の中から排卵誘発ホルモン=FSHを引き出し、注射はFSHそのものを外から投与します。

内服薬の誘発剤には3種類あります。

## 1) セキシビット

効果は弱く、重症の排卵障害だと排卵しない方もいます。女性ホルモンで言うと80~100pg/ml程度の上昇効果が見込めますので、自然周期での女性ホルモン値が200pg/ml程度の方には、妊娠ゾーンの300pg/mlに上昇するため、ちょうど良いお薬であると言えます。

女性ホルモンが300pg/ml以上の方でも、排卵日が20日目を過ぎるほど遅い方や、自然周期では妊娠しなかった場合なども、お勧めできます。効果がマイルドなため、ホルモンの上昇に伴う体調不良が起きにくく、最初にトライするには、うってつけと言えます。セキシビットは、子宮内膜が厚くなりやすく、着床にも良い影響を及ぼします。

福島駅周辺の薬局でしか取り扱いがないため、特に市外の方は福島駅周辺の薬局でもらうようにしてください。

**月経3日目の夕食後から開始し、1回2錠ずつ、1日2回、卵胞が育つまで内服します。**卵胞チェックの結果、まだ排卵の準備が整っていない場合は次回の受診日までの分が追加で処方されます。

## 2) クロミッド

効果が強く、8割の方に排卵を起こす事が可能ですが、内膜が薄くなったり、子宮からの分泌物が少なくなったりして排卵率ほどは妊娠率が上がらない事があります。これを解決するために当院では、一般的には

**生理の5日目から1日1錠、5日間内服** するところを、

**生理の3日目から1日1/2錠、4日間内服** してもらい、妊娠率がかなり改善しました。クロミッドの量を抑え、早く、短く飲む事で、クロミッドの悪い影響を改善できたからと考えています。

## 2) フェマーラ

フェマーラは、アロマターゼという男性ホルモンを女性ホルモンに変換する酵素を阻害することで、下垂体からのFSH（卵胞刺激ホルモン）の分泌を促進し、卵胞の発育を促します。フェマーラはクロミッド同様に子宮内膜が薄くなったり子宮からの分泌物が少なくなることがありますが、比較的軽度です。生理の3日前から1日1錠、5日間内服します。効果が弱い場合は、1日1回2錠まで増量することがあります。

良くある質問です。

### ○「排卵誘発を始めて、体調が悪くなった」と良く聞のですが、大丈夫でしょうか？

排卵誘発剤が効果的に作用すると、当然女性ホルモンが上昇してきますので、それに伴う症状が出てくる場合があります。一般には、だるさ、むくみ、はきけ、頭痛など、妊娠初期と同じような症状です。体が妊娠に向かって改善していく過程での変化ですので、つわりと同じように、いつまでも続かず、次第に慣れて症状がなくなっていくきます。どうしても辛い場合には、**漢方薬**で症状を和らげる事が出来ますので、ぜひご相談ください。

妊娠したら必ず起きるつわりの事を心配する余り、妊娠をあきらめてしまうのも、もったいないので、「起きたらその都度対処すればよい」とか「体が妊娠しやすく変化している」など、前向きに考えていけると良いでしょう。

当院では、必要の無い方に「とりあえず」排卵誘発剤を処方したり、いきなり強い治療をせずに、徐々に刺激を強くしておりますので、体調不良を感じる方は1割以下の方です。体に起きる変化は、完全にゼロにする事は出来ませんが、妊娠するための必要最小限の変化だと考えております。

### ○月経3日目から内服とありますが、来院出来ない場合は？

排卵誘発は、月経の3～5日目に開始するのがベストと言われています。そのため、「次は生理の3日目に来院してください。」と言われる事が多いでしょう。しかし、仕事の都合や祝日などで来院出来ない場合や、たまたま生理の方が集中してしまい、予約が取れない事もあります。5日目までに来院出来ない場合でも、100点が6日目になったとたん、いきなり0点になるわけではなく、99点になるだけです。**「生理が来たら出来るだけ早く」**と考えていただければ良いでしょう。理想は理想として、余り細かくこだわりすぎると、ストレスが溜まって、却って妊娠から遠ざかってしまいます。型どおりに来院が出来ない場合でも、「出来る範囲で」リラックスして通院してください。

どうしても来院が難しい場合は、生理が来る前に翌周期の誘発剤を処方できますので、希望する場合は申し出てください。妊娠した場合、返金は出来ませんので、無駄になるかもしれませんが、生理中に来院出来ない方には一つの手だと思えます。

### ○どうして誘発剤を変えるのですか？

同じ誘発方法をくり返さないのにはいくつか理由があります。

誘発剤は、使い続けると徐々に体が慣れてしまい、効き目が悪くなってきます。1回目の妊娠率が高いのはそのためもあります。さらにクロミッドなどは持続効果がとても長く、そのため、内膜が薄くなるなどの悪影響も、連続投与によってどんどん悪化していきます。当院では原則として2周期連続で、同じ内服薬を処方しない方針としています。

### ○副作用が怖いので強い薬は使いたくないです

排卵誘発剤は投与量によって効果が変わってきます。ですので、強い、弱いと一概に分類する事が出来ませんが、投与可能な最大投与量で考えた場合、

セキシビット < フェマーラ < クロミッド < 注射

の順番になります。最小投与量で考えた場合は、注射が最も効果が弱いと言えます。注射の方が細かく量が調節でき、最大投与量では10個以上の卵胞を発育させる事も出来るため、体外受精にも利用されます。

当院では、例え反応が悪い事が予想される場合でも、副作用予防の観点から、投与量を抑えつつ、飲みやすいセキシビットからトライしております。反応が悪かったり、妊娠しなかった場合は、失敗した同じ薬を続けるのではなく、新たな方法を試した方が良いため、次のお薬を勧めております。

排卵誘発の調節に関しては、飛行機のパイロットが、「出来るだけ安全に、出来るだけ早く」目的地に乗客を運ぶ事を考え、ルートや速度、高度を細かく決めていくように、経験と判断力を求められる専門的な事ですので、安心して医師の指示に従っていただけたら幸いです。常に安全第一を考え、診療させていただきます。

### ○双子が出来るように誘発剤を増やしませんか？

双胎妊娠は母児共に、リスクが10倍以上に跳ね上がりますので、基本単一卵胞を目指して排卵誘発をします。もし、3個以上の卵胞が発育した場合は三つ子を予防するために、治療をキャンセルし、避妊していただきますので、指示に従ってください。

アートクリニック産婦人科